

■萩原雄祐 天文学者。岡山天体物理観測所を完成させて、ワトソン賞。金字塔となる「天体力学」をまとめて、没した。

はぎわらゆうすけ

八幡製鉄始・1897＝ 大阪市で、萩原捨次郎・結子の長男に生まれる。

日露戦争終・1905＝ 8歳：
満鉄発足・・1906＝ 9歳：

明治天皇没・1912＝15歳：
中学時代の恩師・折口信夫の教えで、和歌・俳句も堪能、漢詩もたのしむ文化人となる。

21ヶ条要求・1915＝18歳：
第一高等学校を経て、

原敬首相暗殺1921＝24歳：東京帝国大学理学部天文学科を卒業し、附属天文台嘱託から、助手兼技手、

関東大震災・1923＝26歳：助教授となって、_欧米に留学。イギリスのケンブリッジ大学ではエディントに学び、
護憲三派圧勝1924＝27歳：

金融恐慌・・1927＝30歳：_東京天文台技師となる。

海軍軍縮条約1930＝33歳：_理学博士、
満州事変・・1931＝34歳：

国際連盟脱退1933＝36歳：

芥川直木賞始1935＝38歳：東大教授となり、星学第一講座を担当。

日中戦争始・1937＝40歳：
健保+総動員 1938＝41歳：翌年にかけて、欧米に出張。

日米開戦・・1941＝44歳：
・・・・・1942＝45歳：

年金+総武装 1944＝47歳：学士院会員、
敗戦・・・・1945＝48歳：
新憲法公布・1946＝49歳：*東京天文台所長に就任し、戦後の復興に努め、
新憲法施行・1947＝50歳：_「天体力学の基礎」を刊行、

三大事件・・1949＝52歳：_乗鞍山頂のコロナ観測所を完成、

独立回復・・1951＝54歳：

自衛隊発足・1954＝57歳：_文化勲章を受ける。
_その後も、岡山県浅口郡鴨方町の74インチ大反射鏡の建設に心血を注ぎ

なべ底不況・1957＝60歳：東京天文台・東大を退官し、東北大教授となる。
この間、たびたびアメリカのハーバード大学、ユール大学、スミソニアン研究所で講義、研究を行う。

安保闘争・・1960＝63歳：東北大を退官し、宇都宮大学学長に就任。*岡山天体物理観測所が完成、アメリカ科学アカデミーが世界で
最も優れた天文学者に贈るワトソン賞を受け、

タイタイ病始・1961＝64歳：_国際天文学連合の副会長となる。

東京オリンピック 1964＝67歳：宇都宮大学学長を退任。

_以後、「天体力学の基礎」をもとに、英文「天体力学」(Celestial Mechanics)の編集に傾注、

全共闘・・・1969＝72歳：学士院会員。
大阪万博・・1970＝73歳：_「天体力学」(Celestial Mechanics)第2巻を刊行、

石油ショック1973＝76歳：

ケアンブール事件1975＝77歳：*天体学者のバイブルとなる金字塔・英文「天体力学(Celestial Mechanics)」全5巻を完成し、朝日賞。

成田衝突・・1978＝81歳：_同書の完成と生誕80年を記念して、国際天文学連合シンポジウム“太陽系の力学”が東京で開催された。
革新大敗北・1979＝82歳：東京都目黒区碑文谷の自宅で、_心筋梗塞により没した。

平凡社百科事典、